

KANUMA NO MEISHO

# 鹿沼の名匠

## 藤平 明日

ふじひら

あきかず



### 藤平 明日

藤平明日さんの父・克さんは、水車を改良し、鑑賞用の「下野水車」を作り上げました。それを引き継いだ明日さんは、三十年間で百基ほどを手掛けてきました。

材料選びには、特にこだわりがあります。

「軸は丈夫な榿。他の部分は設置環境によって変えます。例えば、常に濡れているような使い方なら松。それも、五十年から百年くらいの木の、芯と皮の中間部分が適しています」

心棒からは八本の柱が伸び、外周に円形の板がついています。ここが「幕板」と「継板」に分かれているのが下野水車の特徴。幕板には水の大きな力がかかるので、継板で補強しています。

「木は濡れると膨張するので、壊れないよう境目に隙間を空け

てあります。この境目は一見真っすぐですが、実はほんの少しだけ曲がっています。精密な曲線に加工するのは大変ですが、これも力を受け止める工夫のひとつです」

見る人を和ませ、風情を演出する下野水車。その美しい回転は、職人の妥協なき仕事に支えられていました。

水車は設置して終わりではありません。回り続けるには、軸受の交換など継続的な維持管理が必要です。

「下野水車は二十年くらい持ちます。これまでいくつか作り直しましたが、今も『古くなったら作り直してほしい』という予約が入っています。」

「これからも水車を回し続けたいです」と笑顔で話していました。

### ◆ 下野水車製作